

98号

g-kawaraban@googlegroups.com

学園町 かわら版

発行人 / 学園町自治会会長・人見良一

投稿・連絡先 / 学園町2丁目8番地14号

電話・FAX/421-2336

企画編集 / 学園町自治会広報委員会

編集長 / 浜名 純

購読無料・各戸配布／隔月刊行



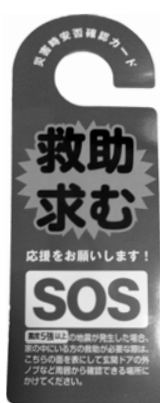
「災害時安否確認タグ」を使用した学園町自治会の防災訓練が11月12日(土)に行われました。災害時安否確認タグは、9月に自治会の会員宅に配付したもので、プラスチック製でドアのノブなどに掛けられるようになっています。赤地に「救助求む、SOS」と書かれた面とその裏側の黄色い地に「無事です」と書かれた面でできています。震度5以上の大地震が発生した際に、救助を求めるサインとして活用します。赤色を出している家、あるいはこのタグが出ていない家から優先的に災害時の声掛けをしようというものです。

訓練は各組単位で行い、皆さんに午前10時をメドにタグを掛けてもらいました。組長さん(組長さんが所用の場合は代わりの人)が、それを確認して回り、タグがかかっていないお宅には声掛けをしました。

「安否確認タグ」を使ってみよう 学園町で3年ぶりに防災訓練

その結果は、全組数50組、会員世帯数638世帯のうち、訓練に参加したのは38組(76.0%)、488世帯(76.5%)でした。実に7割を超える人たちが参加したわけで、後日、東久留米市環境安全部防災防犯課に報告に行った際、担当者が「学園町の皆さんの意識の高さに感心しました」とコメントしています。ちなみに、タグを掲げた世帯は228世帯で、参加した38組で見ると46.7%、自治会全世帯で見ると35.7%でした。

寄せられたコメントの一部をご紹介します。「忘れていた人が多かったが、ピンポンと鳴らすと皆さんタグを持って出てきた」「風でタグが落ちていたり、ドアの形状によってはタグの掛け具合がよくない」「忘れていた人が多かった。意識が低いのではないか」「声掛けの際、今日タグを掛けるのですか。」



タグあつたかなと言われたり、不在の方が多く、防災訓練が周知徹底されていない」「周知面で課題を感じました。多忙で回覧板の中身まで見ていないという家庭もあったので、メールやSNSで周知できる仕組みがあってもいいかと思いました」「どこに掛けようかと迷っている方もいました」

◇自治会では、「こうした取り組みを積み重ねていくことで、一人でも防災へ

3日分の災害備蓄と 「分散避難」のススメ 地震の被害想定、建物全壊は22戸

学園町自治会の組長会が、10月2日、自由学園しのめ茶寮2階会議室で開かれました。東久留米市環境安全部防災防犯課の井上卓課長補佐兼主査、東海佑太主任も出席。半年間の活動状況概要報告や、災害時安否確認タグを配布した目的や自治会としての防災に対する取り組み方について説明があり、

の関心を深めて、「いざ」という時への構えが高まれば」と願っています。また、安否確認タグは現在、自治会会員世帯だけに配布しており、今回の訓練は会員世帯だけで行いました。これを機に自治会に加入されたい方はぜひご連絡ください」と話しています。

加入の連絡先は、自治会長・人見良一(電話421-2336 携帯090-7199-6664 メール catscats@com.home.njp)まで。

その後、井上課長補佐が「災害に備える」と題して講演を行いました。

講演では、自助・共助・公助について、「防災機関だけでは災害対応はできないので、地域で連携して災害に立ち向かう必要があること」を強調、自助に関しては「災害発生直後は地域に公助の手が届かず、発災後72時間は自分で命を支えなければならぬ」として3日分の災害備蓄(1日当たり3リットルの水、常時服用している薬、ペットのえさ、トイレ、携帯電話・ケーブル、予備バッテリーも)用意することを呼びかけました。

また、避難に際しては「分散避難」の重要性を訴えました。分散避難とは、自宅が安全な場合は、自宅に留まる方法(在宅避難)と、安全な地域に住んでいる親戚や友人、知人宅、宿泊施設などの施設に避難する方法です。新型コロナウイルス感染症が心配される中、不特定多数の人が集まる指定避難所等での避難生活は感染拡大のリスクも高まります。(次ページに続く)

ところで、災害が発生した時、学園町全体ではどのくらいの被害が想定されているのでしょうか。東久留米市では、今年2月に「東久留米市地域防災計画」を改訂しました。冬の18時に多摩直下に震度7・3の地震が発生、風速は8mという前提で想定しています。

それによると東久留米市全体で建物の全壊は719戸、火災延焼は768戸、死者44人、負傷者680人、重傷者74人、自力脱出困難者233人となっています。

また、避難人口は2万2450人で、このうち避難生活者数は1万4592人、疎開者人口は7857人です。避難生活者は避難所に避難する人で、疎開者は避難所以外に避難・疎開する人を指します。

これを人口比で学園町に当てはめると、建物全壊は22戸、火災延焼は23戸、死者1人、負傷者20人、重傷者2人、避難人口673人、自力脱出困難者7人です。

これは、令和3年1月1日現在の人口数を基に算出したもので、その時の東久留米市の人口は11万7007人、学園町は1、2丁目合わせて1600世帯3485人でした。最新の人口(今年11月1日現在)は、東久留米市全体で11万6950人、学園町1、2丁目合わせて1597世帯3435人ですので、被害想定数字は変化なしと考えていいでしょう。

ウエルカム学園町 まちと人のつながりを考える ネイバーフッドデザインを 推進する荒昌史さん

昨年11月に学園町に引っ越してきたネイバーフッドデザインを推進する荒昌史さんと妻の写真家・愛子さん。昌史さんは、住民たちがゆるやかなつながりを持つことで、普段は居心地がよく、災害時には助け合えるコミュニティをつくることを目指して活動しています。ネイバーフッドデザインとは何か、学園町の魅力と課題は何か、また、その解決のための方策などについてインタビューしました。

(本文)

——なぜ、まちづくり、コミュニティづくりに携わるようになったのでしょうか。



大学卒業後、住宅ディベロッパーに就職しました。開発の仕事は楽しかったけれど、スクラップ・アンド・ビルドを繰り返す事業の構造には違和感がありました。本当の意味で「まちを作る仕事」をしたいと思うようになりました。2007年に新規事業として環境共生型の住宅づくりや、マンション住民のコミュニティづくりに携わるようになり、2010年12月、30歳の時に独立してHITOTOWA INC.を立ちあげました。「人と和」「人とは?」という2つの意味を込めました。起業した3か月後に東日本大震災が発生したので、復興支援のため陸前高田や南三陸、いわき、石巻など現地に行きました。それで創業後1年間は仕事にならなかったわけですが、「自分は何のために起業したのか」を考え直すとともに、改めて、共助とコミュニティの大切さを実感しました。そして、ひばりが丘団地の再生計画に取り組み始めました。

——まちづくり、コミュニティづくりの意義とはどんなものでしょうか。また、ネイバーフッドデザインとは何か、お

聞かせください。

ゲリラ豪雨や線状降水帯の発生など近年、大雨による災害の危険度が高まっているのをはじめ、巨大地震の発生が想定されています。災害に関して自助・公助・共助が言われていますが、これからますます共助が重要になってくると思います。また、急速な高齢社会への移行で孤独や社会的孤立も問題になっています。コミュニティの形成により近所の人々がつながることは、災害時の命の保護、助け合いや孤立の防止、子育ての支援につながります。

ネイバーフッドデザインとは、近くに住む人たちが「ゆるやかなつながり」を持つことで、豊かな暮らしを送るとともに、町の課題を解決するための手法と言えます。決して「地域のしがらみ」やべたべたとした関係性ではなく、普段は居心地よく暮らせ、いざという時には助け合うことができるというものです。言葉を整理すると、コミュニティとは「近所で暮らしを営んでいる人々の集まりのこと」で、その中で互いに存在を認知し、顔見知りで双方に信頼がある関係性を持つているのがネイバーフッド・コミュニティです。このネイバーフッド・コミュニティを育ていくのがネイバーフッドデザインというわけです。

——荒さんが実践しているネイバーフッドデザインとはどんなものでしょうか。

——昨年11月に学園町に引っ越してきた動機は何だったのでしょうか。

言葉は海外でも使われていますが、その多くがハード面を重視したもので近隣街区の整備を目的としています。HITOTOWAではハード・ソフト両面から取り組んでいます。コミュニティづくりの主体者はあくまでそこに住む人たちです。私たちは、伴走者として仕組みづくりや企画運営などについて一緒に考えていきます。住民の皆さんが自ら手を挙げて新たなプロジェクトを立ちあげるのには勇気がいるので、その背中を押してあげる。また、責任の所在をどこにおくかという仕組みを住民だけで作るのは難しいですが、そこをサポートする役割を担っています。ひばりが丘団地再生事業では、新たにマンションや施設などが建設されることになりましたが、UR都市機構らとともに「一般社団法人まちにわひばりが丘」を立ちあげました。団地の旧118号棟を改修して、コミュニティスペースやカフェ、ショールなどが入るコミュニティセンター「ひばりテラス118」を完成させました。まちに和を描く拠点として機能しています。2020年からは、住民の皆さんだけで運営していくようになりました。

時、学園町をくまなく歩き、「雰囲気がいい、魅力的な町がある」と感じました。緑が多く自然が豊かで、いろいろな様式の建物がありました。特定の開発業者が造成した戸建て群の町は、緑も多く住宅もきれいなのですが、その住宅は皆同じくくりで個性がありません。学園町以外の学園都市を見ると高級住宅街ですが、住宅は堀で囲まれています。専門用語ではゲーテッド・コミュニティ（要塞型住宅地）と呼んでおり町と住宅が切り離されています。一方、この町には住み継がれてきた個性的な家があり、外に開かれています。「この町にぜひ住みたい」と思ったのですが、敷居が高すぎて自分たちが住める町ではない、というのが最初の印象でした。それでも知人の不動産業者に土地がないか頼んでいたのですが、やっと見つかり家を建てました。環境共生のコンセプトで、高断熱・高気密の部屋にし、木の粉を固めた木質ペレットを燃やして暖を取るペレットストーブを使用し、雨水を利用するようにしました。自然を感じることができるよう家を目指しました。

——住んで1年が経ちましたが、今の学園町についての感想や、おかしいと思う点、そして課題についてはどう思いますか。

開発のスピードがこんなに早かったのかと実感しています。今の日本の相続税法では仕方ないのかも

しれませんが、ショックでした。大げさに言えば、緑豊かな学園町を失うということは、日本の都市形成上の財産を喪失すると言っても過言ではありません。「ここにこんなに素晴らしい町がある」ということをもつと声を大にして叫んでもいいのではないのでしょうか。この町の価値に気づいていない人が多いのが問題だと思いました。相続などで町が変わっていくのはしょうがないというあきらめがあるような気がします。もう一つ私たちの世代（40代）と出会うことが少ないかと妻と話しています。この町に同世代の人たちが住んでいるはずですが、町の良さを認識した人たちが集う場所がないのです。増えている空き家をどう活用していくかも重要な課題です。

——最後に、そうした課題を踏まえた上での荒さんの思いをお聞かせください。

私自身、住民であるという側面と住宅開発にずっと携わってきた側面があります。住民心理として学園町のよさが失われることに危惧を感じており、住宅開発にずっと携わってきた者として貢献できることをやりたいという思いを強くしています。学園町に住みたい人がいるけれど、土地の所有者とのマッチングがうまくいっていない例も耳にしています。不動産業者とのネットワークを構築したり、学園町の現状や良さを「見える化」

するホームページの活用などに取り組みたいと考えています。また、空き家の活用なども相談してもらえたら一緒に考えていきたいと思っています。

——ありがとうございます。来年1月15日に自由学園で開かれる講演会「学園町の歴史と専門家が見た学園町の価値」（同封のチラシ参照）に講師として講演してくれるとのことですね。楽しみにしています。

30年間、ありがとう 学園町薬局が9月で閉店

学園町の皆さんに薬を提供し続けてきた学園町薬局が、9月に閉店しました。1992（平成4）年5月に開業以来30年。経営者の香高啓子さん（73）は「皆さんに支えられてあつという間に30年が過ぎました。感謝の気持ちでいっぱいです」と話しています。

香高さんは豊島区生まれ。北里大学薬学部を卒業後、板橋区の心身障害児総合医療療育センター整肢療護園に勤務し、結婚を機に昭和50（1975）年に学園町1丁目に引っ越してきました。自由学園が最初の分譲をした当時に、祖父が購入した土地で、裏には岡村医院がありました。竹やぶに覆われ、祖父が書庫代わりに使用していた山小屋風の家があつた所に新しい家を建てました。「竹やぶを伐採してようやく岡村医院の建物が見えてきたほどで、タケノコがたくさん採れました」と香高さん。当初は、子育てに専念していましたが、お子さんの成長に伴いパートで薬剤師の仕事をするようになりました。それから10年以上経った頃、岡村医院が閉院した後に高月英夫先生が、新しく高月

★プロフィール 1980年生まれ。早稲田大学政経学部卒業後、リクルートコスモス（現コスモスインシア）入社。在社中にNPO法人GoodDayを立ちあげ環境問題に取り組む。2010年に独立HTTOWA INC.を創業し代表取締役。東京都住宅政策審議会委員などを歴任。著書に『ネイバーフッドデザイン—まちを楽しみ、助け合う』暮らしのコミュニティの作り方（英治出版）など。

内科クリニックを開院することになりました。「これはチャンスだ」。開院に合わせ調剤薬局を開業できればと思い、高月先生が勤務していた佐々病院をご主人と二人で訪ねて一緒に仕事をしたい旨を伝え、快諾されました。そして、薬局を新築し、開業したのです。徐々々に学園町のみなさんが訪れてくれるようになり、1年後、国立精神神経センターに勤めていたご主人も退職して薬局を手伝うようになりました。

香高さんは、「来てくださった方と薬の説明や病状などの話をし、最後は笑顔で帰ってくださいることを心がけていました。皆さんのおかげで明るく楽しく仕事をさせていただきました」と話します。スタッフにも恵まれ、常時3人、4人いましたが、友だちやその知り合いの方が手伝いに来てくれたとのこと。

今年3月に、高月内科クリニックが閉院したこともあり、ご自身の年齢も考え薬局を閉める決心をしました。「この学園町で多くの方と知り合うことができました。皆さんに来ていただいて人の和が広がりました。この場所ですらせていただいて本当に感謝しています」と語ります。そして、「薬局を営業中は、なかなか自分の都合で休めませんでした。これからは趣味や旅行をしたりして、自分の時間を有効に使いたい」と閉店後に思いを馳せています。



『ぐりとぐら』を描き続けて
山脇百合子さん(学園町2丁目)が逝去



『ぐりとぐら』や『いやいやえん』など数々の絵本を描いてきた画家の山脇百合子さん(学園町2丁目)が、今年9月29日、シェーニングレーン症候群による衰弱のため死去しました。享年80歳でした。葬儀は家族葬で行いました。

百合子さんが挿絵を描き始めたのは東京都立西高の高校生の時。保母をしながら創作活動をしていた姉の中川季枝子さん(旧姓大村)が、百合子さんに「この童話の挿絵を描いてほしい」と依頼したのが最初です。それが童話『いやいやえん』でした。1963年に雑誌「母の友」に季枝子さんが文を書き、百合子さんが絵を描いた『たまご』を発表、それが福音館書店から『ぐりとぐら』として刊行されました。

これが、『ぐりとぐら』シリーズの始まりで、シリーズは累計2150万部の大ロングセラーになりました。

2013年12月には、姉の中川季枝子さんとともに第61回菊池寛賞を受賞。数々の名作絵本、童話によって子供たちの豊かな創造力と感性を育んできたことが高く評価されたのです。

ところで、百合子さんのご主人は、自治会副会長だった山脇享さん。享さんの一番上の姉と百合子さんの姉季枝子さんが都立高等保母学院の同級生。「うちには結婚していない弟がいて困ったものだ」と享さんの姉が言うと、季枝子さんも「うちにも結婚していない妹がいる」ということで二人を会わせることになったのです。あとはトントン拍子で結婚。百合子さんが享さんの住む学園町に移って、今年で56年が経ったというわけでした。

「学園町かわら版」では、百合子さんが菊池寛賞を受賞した時に、自宅にインタビュアーにお伺いしましたが、「近隣の人たちとい関係をもつて暮らすことができています。この緑の多い環境が保たれるといいですね」と学園町の思いを語っていました。ご冥福をお祈りします。

自由学園からの
お知らせ

■幼児生活団幼稚園2才児プレ説明

12月19日(月) 10:00～11:00、自由学園みらいかん

■幼児生活団幼稚園庭開放

12月15日(木)、22日(木) 1月12日(木)、19日(木)、23日(月) 2月1日(水)、8日(水) 10:00～11:00

■自由学園女子部学校説明会

12月10日(土) 12:00～14:00 対象・小学6年生

■自由学園男子部・女子部集団考査って何だろう?

12月17日(土) 19:00～12月18日(日) 9:00～

男子部、女子部の中等科・高等科入学希望の方へオンラインにて「集団考査って何だろう?」を行います。

■自由学園こっこ広場

0、1、2才のお子さんと、お母さん、お父さんのための子育て広場です。詳細はこっこ広場HPからお願ひします。

<http://www.jiyuac.jp/cocko/>

※以上の催しについて、詳細は自由学園のホームページに掲載しております。

※お問合せ先: 自由学園広報本部

TEL: 042-428-2122

e-mail: kh@jiyuac.jp

URL: <https://www.jiyuac.jp>

南部地域センターからの
お知らせ

みんなでアート2022

《東久留米のクリスマス》

※本イベントは、市民プラザ・南部・東部・西部の各地域センター合同企画で実施。

★手作りのオーナメント大募集

今年のテーマは【Smile & Peace】

あなた流自由な発想のオーナメントお待ちしています。

・募集期間12月24日(土)まで

(展示可能作品数に達するまで)

・展示期間12月26日(月)まで

・展示場所 市民プラザ、南部・東部・西部各地域センターロビー

・応募方法 オーナメントは各展示場所に直接持込み。オーナメントの返却は出来ません。

《東久留米のクリスマス以外のイベント》

【ヨガ教室関係①～⑤】

①「夕方YOGA教室(火曜クラス)」

12月13日・20日・27日・1月10日・17日・24日・31日・2月7日・17:30～18:30。参加費500円。定員10名。講師: ヨガインストラ

クター健康運動指導士 中村陽子

②「夕方YOGA教室(金曜クラス)」

12月16日・1月6日・13日・20日・2月3日・10日17:30～18:30

③「ヨガ男塾」

12月16日・1月16日・1月6日・13日・20日・2月3日・10日19:00～20:00

④「日曜ヨガ教室」

12月18日・1月15日・2月5日

⑤「健康体操」

12月18日・1月15日・2月5日

※②、③、④、⑤の【参加費】、【定員】、【講師】については、いずれも①と同一。

★ベビーマッサージ

12月12日(月)・1月16日(月)10:00～12:00 参加費2000円。生後2か月～1歳前

後の赤ちゃん和妈妈・妊婦さん

★「バクさんとその仲間と音楽と」

12月18日(日)・1月29日(日) 開場13:15 13:30～15:30

★60歳からの音楽で脳トレ体操

12月19日(月)・1月30日(月)10:15～11:30 定員10名。参加費1000円

★妊婦さんとママのためのところからだのセルフケアレッスン

12月19日(月)・1月23日(月)10:00～11:30 定員18名(親子参加は9組まで) 参加費500円。妊娠中の不安な気持ちを共有したい方、子育ての悩みを共有したい方、マタニティライフをナチュラルなケで過ごしたい方

★なんぶおしゃべりサロン

・1月8日(日)・2月5日(日)13:30～15:30 参加費1000円。定員10名。対象: 地域にお住いの高齢者

※各イベント問合せ 南部地域センター(指定管理者(株)ヤンン) 042-451-2021 Higashikurume_nanbu@s-seiun.co.jp